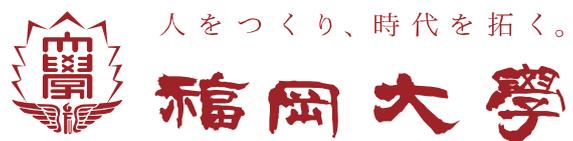


# 平成 29 年度 学校法人福岡大学 事業計画



## はじめに

本法人は、9学部31学科・大学院10研究科34専攻を擁する大学（福岡大学）、2つの総合病院（福岡大学病院、福岡大学筑紫病院）、2つの附属高等学校（附属大濠高等学校、附属若葉高等学校）、1つの附属中学校（附属大濠中学校）を有し、教育、研究、医療の質向上を図り、地域社会や国際社会に貢献できる人材の育成に取り組んできました。

今日、学校法人を取り巻く環境は大きく変動しています。18歳人口が減少し始める2018年問題をはじめ、国が示す教育の大転換である高大接続改革、革新的・先導的な大学改革等を求める事業の推進、入学定員超過率の厳格化、大学教育の根幹をなす「三つの方針」の策定・公表の義務化、高度な医療の提供、地域医療への貢献等、これらを踏まえて、多様化、高度化するさまざまなステークホルダーの需要に学校法人として応えていかねばなりません。

平成29年度事業計画書の構成は、「Ⅰ. 福岡大学」「Ⅱ. 附属学校」「Ⅲ. 法人・経営」からなっています。大学については、「建学の精神」「教育研究の理念」を基軸に策定した「福岡大学ビジョン2014-2023」を指針とし、国の施策を踏まえて定めた目標達成に向け全学的に取り組みます。附属学校については、高大接続改革における高等教育改革で求められている学習・指導方法の充実、教員の資質能力向上等に向けた取り組みを更に進めていきます。法人・経営については、限られた予算財源の効率的な活用、中長期的な施設整備計画を含む安全な施設の拡充・整備、現代のニーズに対応したICT環境の整備、またこれらを支える教職協働による法人運営ができる組織改編等、著しく変動する現代社会において揺ぎない学校法人としての基盤整備の強化に取り組めます。

### 福岡大学ビジョン 2014-2023

福岡大学は、九州に位置する総合大学として地域との絆を大切にしつつ、時代や社会の要請に応じて教育・研究・医療の拠点として広く社会に貢献します。特に、次の4つを重点項目とします。

- ① 時代の要請や社会のニーズに対応した教育・研究・医療の提供
- ② 先進的で高度な研究活動の遂行
- ③ アジア諸国との関係を中心にして行うグローバル人材育成
- ④ 福岡を中心とする地域の活性化と発展の促進

# 目次

I. 大学	1
1. 教育	1
(1) 学生の受入れ	1
(2) 高大接続・連携の推進	1
(3) 学士課程教育の充実	1
(4) 大学院教育の充実	2
(5) 教育方法・内容の改善	2
(6) 国際化	2
(7) 学生支援の充実	2
(8) 就職支援の充実	3
2. 研究	3
(1) 研究高度化の推進	3
(2) 研究成果の発信及び活用	3
3. 医療	4
(1) 福岡大学病院	4
(2) 福岡大学筑紫病院	4
(3) 福岡大学博多駅クリニック	4
4. 社会貢献	4
II. 附属学校	5
1. 附属大濠中学・高等学校	5
(1) アクティブ・ラーニングの推進	5
(2) キャリア教育の推進	5
(3) 高大接続改革	5
(4) 生徒の受入れ	5
2. 附属若葉高等学校	5
(1) 教育の充実	5
(2) 生徒の受入れ	6
(3) 教育力の向上	6
(4) 高大接続改革	6
III. 法人・経営	6
(1) 組織改編	6
(2) 財政・経営	6
(3) 施設環境整備	7
(4) ICT環境の整備	7
(5) 職員の資質向上	7
(6) 広報	7

# I. 大学

## 1. 教育

### (1) 学生の受入れ

#### ・アドミッション・ポリシーに則した入試制度の検討

本学は、アドミッション・ポリシーに基づき、「能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価する入学者選抜」を目標に掲げているが、現在の入試制度は学力評価が中心となっている。多面的・総合的な評価による入試制度の確立に向けて推薦入試の評価方法の見直しを検討する。

#### ・入試広報の強化・充実

出張講義、進学説明会、高校訪問を積極的に行い、直接受験生、保護者、高校教員等と接する機会を設け、志願者増に向けた取り組みを推進する。

### (2) 高大接続・連携の推進

#### ・附属若葉高等学校推薦入試をモデルとした推薦入試制度の充実

附属若葉高等学校との一貫教育では、大学が高校教育の一部に関わり、生徒のパフォーマンスを多面的に評価する附属推薦入試を行っている。平成 29 年度はこの一貫教育をモデルとして、附属高校以外の高校を対象とした高大接続・連携について、検討を開始する。

### (3) 学士課程教育の充実

#### ・教育内容の改善

全学的・組織的な教育改善に資するよう設計した新授業アンケートを Web システムにより試行し、平成 30 年度からの本運用に向けた準備を行う。

#### ・カリキュラム・ポリシーの再策定に伴うカリキュラムの再構築

カリキュラム・ポリシーの再策定について、平成 28 年度に「ポリシーの見直し等に関する検討委員会」を設置し、検討を行っているが、これと並行して科目の精選や順次性及び関連性を明確にする必要がある。平成 29 年度は、カリキュラム・ポリシーの策定と共に、科目のスリム化も視野に入れ、教務委員会主導でカリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーを作成する。

#### ・地域と連携した全学横断的な教育プログラムの開発

地域を志向した教育プログラムとして、「健康福祉」「環境」「防災」「景観・歴史文化」「学校教育支援」「観光・産業の政策・戦略」の 6 分野での学部横断的な「地域志向型学習プログラム」の開設を目的とし、科目の位置付けと規程、科目の内容と担当者、実践的授業方法の確立を検討する。また、地域再生に資する人材を育成するため、地域コーディネーター養成プロジェクト「地域活性支援塾」（在学生向け）を開講する。

#### ・教学 IR の活用

学生の特性や授業・学習体験が、教育成果や学習意欲に与える影響を検証するため、学生調査の試行的実施や各部署で実施している各種調査の把握と項目を検証する。また、得られた情報や公表されている定型資料の情報から、正式版ファクトブックの作成を開始する。

#### ・教学系組織の再編

教育系組織を見直すため、基本計画委員会の教育制度専門部会において、教学系組織の再編に

ついて検討を行う。

#### (4) 大学院教育の充実

##### ・大学院教育・研究指導功労賞の導入

大学院における教育及び研究の指導に関して、特に貢献した研究教育指導教員を学長が表彰する制度を設け、大学院の研究教育の充実及び活性化を図る。

##### ・学生海外研究発表支援制度の導入

大学院の国際化と活性化は、本学の研究水準を高めるための必須条件である。国際的な学術研究発表を奨励するために、渡航費や宿泊費等の一部を支援する制度を平成 29 年 4 月より導入する。

##### ・大学院広報の強化・充実

大学院受験者数の増加を目指し、学部での大学院進学の情報強化やホームページのリニューアル等を実施する。

##### ・大学院長期履修制度の導入

仕事を続けながら大学院に通う社会人等に配慮し、標準修業年限での履修が困難な場合に、標準修業年限を超えても履修できる長期履修を導入する。

#### (5) 教育方法・内容の改善

##### ・授業方法及び成績評価方法の検討

学士課程における成績評価は、原則として定期試験に拠ることになっているが、アクティブ・ラーニング型の授業を含め、多様な評価を導入する。

また、平成 25 年度から教育開発支援機構で実施している正課外プログラム「大学から始める『言葉の力』育成プログラム」(以下「コトチカ」という。)の内容を吟味し質的向上を行い、コトチカの運営を通じて作成されたアクティブ・ラーニング型の教材、グループワーク型授業において学生の主体性を引き出す手法等について、情報を学内へ提供し、全学的にアクティブ・ラーニングによる授業を支援する。

#### (6) 国際化

##### ・G.A.P.科目の充実及び拡大

G.A.P 科目の内容を充実させ、履修生を 300 名以上に拡大する。また、留学生にも聴講させ、アジアからの短期留学生向けの教育プログラムの設置を検討する。

##### ・学生の海外派遣及び受入れ拡大

既存の海外協定校との連携強化及び新規海外協定校(大学間)の開拓を進めると共に、学部や大学院独自の部門間協定による海外派遣・受入れ学生数を拡大し、国際的素養と視野及び行動力を備えた人材を育成する。

#### (7) 学生支援の充実

##### ・障がい学生支援体制の強化

平成 28 年度の障がい者差別解消法の施行に伴い策定した本学の障がい学生支援に関する「基本方針」及び「ガイドライン」について、学内の周知及び協力体制の充実を図る。

##### ・正課外教育の充実

正課教育で培われた能力を実務(職業)に効果的に結び付けるための一助として、各種資格取得講座及び国家試験対策講座などの正課外講座(エクステンション講座)を開講する。看護師国

家試験、薬剤師国家試験、2級建築士試験については、学部や学科と連携し試験対策講座や模擬試験等を実施する。更に、表彰制度（報奨金支給）や再チャレンジ支援制度を設け、修学支援を充実させる。

- ・ **スポーツブランド力の向上に向けたスポーツ活動の強化**

本学運動部や本学出身のトップアスリートの活躍は、本学への帰属意識を高めると共に地域の活性化にも大きく貢献する。本学のスポーツブランド力の向上に向け、スポーツ強化体制の充実を図る。

## **(8) 就職支援の充実**

- ・ **全学年を対象とした就職活動支援、キャリアサポートの充実**

低学年次からの将来の進路を意識し、充実した大学生活を送ることが出来るよう、1年次生を対象に「キャリアデザインガイド」を配布する。更に全学年を対象とし実施する卒業生との就職懇談会や進路発見ワークショップ、インターンシッププログラム、学内OB・OG訪問会を充実することにより、職業、仕事、進路について考える機会を提供する。

また、学内での合同企業説明会、個別企業説明会や人事採用担当者による講演会・セミナー等を増やし、学内で多種多様な企業と接する機会を設ける。

- ・ **インターンシップの強化**

地元企業に精通する九州インターンシップ推進協議会や本学出身の企業経営者で構成される福岡大学産学連携協議会と連携し、福岡を中心とした企業、行政等の受け入れ先を増やすと共に、世界で活躍する人材の育成を目指し、海外インターンシップの強化に努める。

## **2. 研究**

### **(1) 研究高度化の推進**

- ・ **研究IRの充実・促進**

研究者の研究活動の公表が義務付けられ、研究推進部の管理する研究者情報で公開しているが、教育研究活動実績データの更新が十分になされていないため、一定期間ごとに、簡易版の教育研究活動実績の提出を義務化するなど方策を探り、研究高度化の行動計画を策定する。

- ・ **外部研究資金の獲得及び科研費採択率の向上**

産学官連携コーディネーターを中心に地域や企業のニーズ調査及び大学のシーズと的確なマッチングを行い、加えて本学出身の企業経営者とのネットワークである福岡大学産学連携協議会においても研究成果を活用させるための取り組みを行い、受託研究・共同研究を推進する。

また、科研費の採択率向上のため、研究計画書の添削指導や採択者の研究計画書閲覧等の実施を行う。

### **(2) 研究成果の発信及び活用**

- ・ **研究ブランディング事業の推進**

本学におけるこれまでの多岐にわたる研究成果や地域貢献事業を、総合大学の特色を生かした新たな研究ブランディング事業として編成し、大学のブランド力向上を図る。

- ・ **知的財産の管理・運用**

本学の知的財産の有効活用に向け、発明届時や審査請求時の審査基準、権利維持や外国出願時の判断基準、共同出願時の契約内容の基準等、管理全般における学内基準を策定する。また、こ

れまでに取得した特許については、TLO（技術移転機関）と連携して、知的財産の更なる活用のため、これらの実施状況を分析・検討する。

### 3. 医療

#### (1) 福岡大学病院

- ・ 高度急性期医療の機能維持と地域医療連携の強化

高度急性期医療や先進医療を継続的に提供するためには、亜急性・回復期の患者を受け入れる後方支援病院が不可欠である。そのために、従来の診療科に依存してきた後方連携だけでなく、病院が主体的に大学と連携しつつ、戦略的・統合的な地域医療連携体制の構築に努める。

- ・ 国際医療の実践

検査・治療を希望する外国人患者の受け入れ体制を整備、推進するため、必要書類は全て英語版、中国語版を作成し、有償医療通訳の紹介、ホームページの外国語版の作成、外国人受け入れの専門業者との連携、福岡大学博多駅クリニックの海外健診プランへの協力などを行う。

#### (2) 福岡大学筑紫病院

- ・ 医療機能分化と連携の推進、在宅医療支援

地域の医療機関と一体的な医療の提供に努め、医療機能の分化と連携を推進すると共に、在宅、往診、訪問看護、介護等を行う施設との連携を図る。そのため、在宅支援室（仮称）を設置し、在宅医療、訪問看護等への支援を開始する。

- ・ 医師等、医療従事者の労働環境の整備、男女共同参画の推進

院内保育所の拡張、病児保育の推進、医師（女性医師）の待遇改善、医師の増員、外来食堂・職員食堂の改善などを通じて、医師等、医療従事者（特に女性職員）の労働環境を整備し、男女共同参画を推進する。

#### (3) 福岡大学博多駅クリニック

- ・ 女性医療、国際医療の推進

常勤女性医師を公募、配置し、女性医療（美容、形成、産婦人科、乳腺等）への特化を推進する。また、専門業者と連携し、外国人向けの健診等を積極的に取り入れ、福岡大学病院へ優先的に紹介することで、福岡大学病院との連携をより強固なものとする。

### 4. 社会貢献

- ・ ボランティア活動の支援

熊本地震の発生に伴い平成 28 年度は休止していた東日本復興支援セミナーを再開し、復興と活性化に向けた活動を展開する。併せて、平成 29 年度も熊本地震被災者に対する支援活動に取り組む。

また、JICA-福岡大学ボランティア連携事業により野球部とサッカー部から部員を海外へ派遣し、現地のスポーツ振興・発展に貢献する。更に、他の体育会系種目や学術文化系（音楽等）を媒体にした事業への拡張を図る。

- ・ 災害時拠点としての体制整備

大規模災害発生に備え、平成 29 年 2 月竣工の福岡大学総合体育館を中心とした、避難計画、下宿・寮生を含めた学生の防災マニュアルを作成し、行政、地域と連携して防災訓練を実施する。

また、防災とあわせて災害等の不測の事態でも、本学の基幹となる事業を中断することなく継続あるいは可能な限り短期間で復旧させるための体制整備に向けた福岡大学 BCP（事業継続計画）策定について検討を行う。

#### ・生涯学習支援

学び直しや社会人の多様なニーズに対応した生涯学習環境の整備の一環として、公開講座（福岡大学市民カレッジ）を幅広い世代へ提供する。また、エクステンション講座の一部を一般市民に開放するなどし、学習機会を提供するとともに、就職・再雇用を支援する。

#### ・地域連携活動の推進

地域の多様な主体（行政・企業・地域組織等）とのネットワークを構築し、それらの資源をいち早く教育研究の高度化、財政基盤の安定、大学のブランド力の向上へと発展させるため、各部門の事業及び運営体制を整理・見直し、規程整備等の検討を始める。

また、私立大学等改革総合支援事業のタイプVとなる「私立大学等連携プラットフォーム形成支援事業」の内容を検討する。

## II. 附属学校

### 1. 附属大濠中学・高等学校

#### (1) アクティブ・ラーニングの推進

##### ・21世紀型ジェネリックスキルへの対応

各教科に研究員を置き、研修会・公開授業等を行い、アクティブ・ラーニング型授業の推進を図ると共に、定期考査や実力考査、入学試験の問題についても検討を行う。

#### (2) キャリア教育の推進

##### ・学習実態調査及び意識調査の実施

学習実態調査及び意識調査の結果を基に、進路指導委員会において年間目標と指導方針を設定する。

#### (3) 高大接続改革

##### ・カリキュラム・マネジメントの検討

高大接続改革に伴う、「カリキュラム・マネジメント」の再策定を想定し、準備委員会（仮）を設置し、検討を始める。

#### (4) 生徒の受入れ

##### ・入試広報の強化・充実

詳細な説明を行うために、教師1名が少数校を担当することにより、地域毎の状況に照らしながら、訪問時のコメントなどの細かな指示を、広報委員会を通して行う。

また、中学校での体験授業や高校説明会を積極的に行い、内容を充実させることで受験生を確保すると共に、中学校だけではなく大小さまざまな塾への広報活動を活発化させる。

### 2. 附属若葉高等学校

#### (1) 教育の充実

##### ・ICT等の活用

高校生としての基礎的な学力を確実に身に付けるため、ICTの活用や生徒の学習達成度を計る新たなテストの導入の検討を開始する。

## (2) 生徒の受入れ

### ・情報発信の強化

志願者確保に向けた広報活動に加え、適時・適切な情報を受験生、保護者、中学校関係者等に向けて発信し、ブランド力と認知度の向上を図る。

## (3) 教育力の向上

### ・教員研修の充実

アクティブ・ラーニング型授業やキャリア教育等、教育環境の変化に迅速に対応するため、教員の資質向上に向けた研修の強化・充実を図る。

## (4) 高大接続改革

### ・高大一貫教育システムの評価・検証

福岡大学附属高校となつての第一期生が大学を卒業したことを受け、高大一貫教育システムの評価・検証を行う。

# III. 法人・経営

## (1) 組織改編

### ・事務組織の再編

事務組織を見直すため、事務組織改編検討委員会を改めて編成すると共に、目まぐるしく変化する大学を取り巻く社会環境に迅速に対応し、「多様化・複雑化している業務に対応できる事務組織作り」、「教職協働」と“大学運営参画”が出来る事務組織作り」という観点も加え、検討を行う。

### ・倫理、兼業、懲戒各規程・内規の整備

基本計画委員会の組織運営専門部会で検討を加えてきた倫理、兼業、懲戒に関連する規程及び内規を整備する。

### ・男女共同参画の推進

大学に「福岡大学男女共同参画推進委員会」を設置し、男女共同参画の推進に取り組んできたが、平成29年4月に「学校法人福岡大学男女共同参画推進本部」を設置し、大学のみならず、附属学校を含め法人全体で男女共同参画を推進する。

## (2) 財政・経営

### ・資産の有効活用

本学の教育研究の発展に資することを目的として、資産を安全かつ有利に運用する。特に、国内金利がほぼゼロ金利であり、また本法人の金融資産に占める有価証券比率が低いため、リスクに配慮しつつ徐々に有価証券の比率を高めていく。また、本学が所有する土地の利用について活用方法を検討する。

### ・効率的な予算編成

18歳人口の減少や診療報酬の抑制、入学定員超過率の厳格化など、本法人の収入が確実に減少する中、限られた予算財源を重点事業に傾斜配分し、効率的な予算編成を行う必要がある。このため、人件費支出・教育研究費支出・管理経費支出に一定のシーリングを設け、経費の増加を抑

え、捻出した経費をより重要な事業へ投入するというメリハリのある予算へのシフトを促す。

- ・ **中長期施設整備計画に伴う資金計画の策定**

校舎の老朽化による建て替えや耐震補強整備などの多額な施設投資が発生することが想定されるため、中長期施設整備計画を策定し資金計画を立てる。

### **(3) 施設環境整備**

- ・ **教育研究施設及び医療施設のグランドデザインならびに中長期施設整備計画の策定**

基本計画委員会のキャンパス整備専門部会を中心に、教育研究施設及び医療施設のグランドデザインならびに中長期施設整備計画を策定する。

- ・ **施設の耐震補強に係る工事の実施**

有朋会館、5号館別館、9号館別館、第二記念会堂、附属大濠中学校・高等学校第2体育館、附属若葉高等学校講堂兼体育館の6棟の耐震補強工事を実施する。また、平成28年度の耐震診断の結果、耐震補強が必要となった施設（学生部事務室棟、アニマルセンター、やまなみ荘本館）について対応を検討する。

### **(4) ICT環境の整備**

- ・ **学内情報システムのグランドデザイン策定と情報処理組織の再編**

現在の情報システムでは、大学、病院、附属学校などを統括する組織が設置されていない。また、情報システム構築経費の高騰と情報管理の強化によって、法人全体の立場から情報経費の最適化と人材配置の適正化を図る必要がある。このことから、情報処理センターの組織再編も含め、法人全体の観点からシステム構築及び組織再編について検討を開始する。更に平成31年度に予定している第6世代の教育研究情報システムへの更新も併せて検討する。

### **(5) 職員の資質向上**

- ・ **SDの推奨と充実**

平成28年度に策定したSDの実施方針・計画に基づき、職員の資質向上を目的とした全学的なSDを実施する。

### **(6) 広報**

- ・ **福岡大学公式ウェブサイトの全面リニューアル**

大学の公式ウェブサイト进行全面リニューアルし、平成29年10月に公開する。新公式ウェブサイトは、スマートフォンやタブレット等に対応し、訴求効果が高く魅力的なデザイン・コンテンツを展開する。